

2019年12月5日 国文学研究資料館見学会
松代真田家文書の世界

西村慎太郎(国文学研究資料館)

I: 松代真田家文書概要

真田家文書は、真田家のいわゆる家史料と藩の行政を中心とした藩庁史料とに大別できるが、前者に比較し後者の比重が圧倒的に多いところに第1の特色がみられる。さらにこの藩庁史料にはいわゆる編纂物などは殆ど見当らず、各役局で日常の執務の必要から作成された史料が多い。このことと関連して、藩主や側近家臣または家老らが関与する藩の重要施策のみに片寄らず、藩の職制や業務の上では末端に近いと思われる人々や仕事に関する事柄を示す史料が少なくない。これらの史料は極めて具体性を持ち、藩政の実態を窺うには欠く事のできないものであり、本文書の特色の第2にあげることができる。史料の残存は、前述のように1622(元和8)年以来転封がなく明治維新まで続いたため、移動による史料の廃棄・紛失を免れたことが幸いしたと考えられる。しかし長年月の間に水災火難による亡失は数次に及び、本文書の全体構成としては、1804-1829年(化政期)以後が圧倒的である。(後略)

II: 松代真田家文書の特質

・点数:52159点 ⇒国内最大級の大名・藩文書群

山口県文書館毛利家文庫 32658点 / 東京大学史料編纂所蔵島津家文書 15133点(国宝)

・役所ごとの日記・資料が膨大

家老:「日記」をはじめとして984点 →藩政全般の研究に

文武学校:「日記」をはじめとして256点 →藩校運営の研究に

郡奉行:「日記」をはじめとして1170点 →松代藩の村方研究に

III: 古文書勉強会で読んでいる文化2年にまつわる松代真田家文書

・494点。国家老日記・江戸家老日記・目付日記・勘定所元々日記・武具方日記・御側御納戸日記などの日記類をはじめとして様々な資料【スライド参照】

IV: 松代藩内のほかの古文書

・松代真田家文書(寄託):3540点

・松代藩家臣書状:101点。真田図書書状39通、山寺源太夫書状20通、山寺源太夫宛書状11通、含章堂宛書状4通、草間一路書状1通など。書状以外では文政

4年「年賦金受取覚」、嘉永2年「利金請取覚」、このほか「家来北沢平蔵大筒打手伝にて鎌倉罷越之儀届書」(恩田靱負)、「脱走賊徒追討二付条目并往復書届」(1冊)、「継人夫切手」(北陸道先鋒会計)など。

・竹内家文書:13点。享保2年～元文3年に至る13冊の「御用日記」である。前半分には、町奉行にかかわると推定される松代の町方支配に関する事項が多く、後半分にはやや御側向の記事が目立ち、法令の書写も多い。

・依田家文書:2837点。19世紀の甚兵衛、源之丞が目付在職中の文書。①依田氏家系、真田系譜。②領地朱印状、知行目録、職務辞令、進上物目録。③知行所出納規定、知行所収納帳。④御条目留書、目付御条目、評定所規定、目付役向日記、目付役向留書、目付勤仕録、目付役向小絵図面、目付加役勤方日記、御供方心得、道中勤方、御巡見一件控類、幸教公御上洛御供日記、嘉永六年佐久間修理一件(異国船来航)書類、元治元年佐久間修理一件書類など。

・八田家文書。約3万点(目録作成中)。御用商人、産物会所取締役。①「内方」の文書。「内方」は家政機関であるが、同時に各店を統轄する機関でもあった。文書には系図・家訓・奉公人などに関するものがある。②「店方」の文書。八田家の「店方」は営業の種類に応じて、専門分化し、各店ごとに営業帳簿が作成されている。③糸会所・産物会所文書。会所の運営のために作成ないし授受された文書である。

東条村相沢家:東条村北組名主としての村方文書。1863(文久3)年の松代藩御城番組となってからのものは、御切米割合元帳、御城番組御番割帳、御扶持方帳、卒族給禄の県庁達状等がある。

外田洋収集文書:1点。代官長谷川深美の弘化3年「午御小役諸運上銀御勘定帳」。

主催:長野市立博物館・真田宝物館有志

国文学研究資料館基幹研究「地方協創によるアーカイブズ保全・活用システム構築に関する研究」

西村慎太郎

(人間文化研究機構国文学研究資料館准教授)

E-mail haniwa28@hotmail.com

Twitter nishimurahaniwa

Facebook shintaro.nishimura.52

Instagram shintaro19690703

Brog <https://ameblo.jp/nishimurahaniwa/>

<http://resarchmap.jp/nishimurahaniwa>